

2290

百物詁評判

四

百拙評刺之目録



才一 揚州稻野小篠付 吳陽之の事

才二 河太郎 并 丁初の拙評の事

才三 野衾の事

才四 梟たる付 賈誼の鵬鳥の賦の事

才五 鶴の事 付 弓に聖人の遺法の事

才六 鬼門の事 付 周の武王往亡日は首途の事

才七 雪女たる并 雪女の説

好文堂

才八 西寺町は墓の燃し事

才九 舟幽霊 付 丹波の姫が火津王仁光坊の事

才十 雨師風伯 付 殷の湯王唐杜太宗の事

才十一 黄石公の事

百地修保刺事之記

才一 指別 稲野小笹 付 具隠之の事

素より子侍りハ指別 稲野小笹と伴 崎のあゝい
のいなものさす 変に方に入るなる笹ああり
是和ふに依せしいなものさ原此名所なるは
少くも示の者 海とせハあふハ誰あくもあま
それ竹紙よりなるあふハあふ海に 根氣に
なれし事 数よりなるあふハあふ海よりあ
堀とほりなるあふ人のうぬ海にににに
あまいぞよれあ名奇なるあふあやと人く

かりはしむりッバ異^ゴ野^ノ之^ノ賢^{サト}人^{ヒト}を^ヲ海^{ウミ}
 んま^{ウミ}活^キしにいよく^ニ公^{キミ}活^キり^ヲを^ヲり^ヲと^トみ^ミえ^エう^ウい^イあ
 此^{コノ}お^オ世^セと^トう^ウ事^{コト}に^ニ也^ヤ侍^{サマ}ん^ンと^ト保^ホせ^セう^ウ事^{コト}死^シ

才^{サイ}二^ニ 河^{カハ}を^ヲ郎^{ロウ}付^ツ丁^{テイ}初^{ハツ}の^ノ抱^{ダク}渡^{ワタ}の^ノ事^{コト}

一^{ヒト}人^{リョウ}の^ノい^イと^ト河^{カハ}を^ヲ郎^{ロウ}と^トい^イう^ウか^カる^ルもの^ノ銭^{ゼン}ッ^ッル^ル葉^{エフ}
 女^メ屠^ゾ此^{コノ}在^{アイ}下^カ河^{カハ}別^{ベツ}野^ノ河^{カハ}の^ノ金^{キン}お^オに^ニく^クけ^ケが^ガそ^ソの^ノ
 河^{カハ}邊^ヘに^ニ子^コら^ラの^ノあ^アと^ト死^シて^テ居^イッ^ッル^ル肉^{ニク}は^ハ朽^クく^ク
 ハ^ハみ^ミえ^エッ^ッさ^サれ^レ事^{コト}法^{ホフ}屋^ヤト^ト銭^{ゼン}河^{カハ}を^ヲ良^{リョウ}の^ノあ^アに^ニさ^サの^ノ
 や^ヤに^ニッ^ッな^ナう^ウじ^ジ侍^{サマ}の^ノ自^ジ色^{シキ}を^ヲ保^ホせ^セう^ウ事^{コト}な^ナう^ウ事^{コト}は^ハ
 と^トじ^ジと^トあ^アう^ウい^イう^ウか^カる^ル所^{ショ}と^ト同^{ドウ}け^ケい^イッ^ッル^ル生^{セイ}



佛といふく河をさるも河瀬の初紙地なるなる
一河瀬ハ正月に天で来る事七十二候の二
つにさるも奥紙より歎なり伏しあつたこと
のおろくは思ひみちぐも文へう守まゝく終
るゝへ幅幅のおとしさるけり變化をこ
やもあはしむとあり丁初と伝し者未曉
の地をゆにほりあきりにふあはれ
ろし身れもさるけりあわ創くさる
るるに害なりなる女房二ハあきりけり
さるさる地をさるくまゝと縮くさるさる

いふさぬはと變化の地なりと云ふやに
ありて初とさるるさるハ彼女房の地なり
とむ入くたさなる河瀬となさるさる縮く
やさる地なりハさる地なりと云ふさる
ありとさる地なりハさる地なりと云ふ
けりあはしむとあり丁初と伝し者未曉
の地をゆにほりあきりにふあはれ
ろし身れもさるけりあわ創くさる
るるに害なりなる女房二ハあきりけり
さるさる地をさるくまゝと縮くさるさる

才三 野食の事

又聞くいふく野食の事ハ何ものやと云ふ
さるくのおもふハあきりけり化生の地なり

龍の事なりけりものゝたれを歎なりともやい
魚とと爾雅に魚と魚傳述ハナ草綱目に
も李時珍禽の部に入よりさきとと鳥の部
とと羽ありてとと鳥とと鳥とと尾ととと
とととととにハナとととととととととと
事魚のうづもとととととととととととと
て翅と即肉なりはらの足ありととととと
とととととととととととととととととと
く魚りりやと中に傳りたなととととと
とととととととととととととととととと

たははととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
物成むらう時ハハハハハハハハハハハハ
にととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
事人の事ハハハハハハハハハハハハハハハ
にハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

才に 梟此事 付賈誼鵬鳥の賦の事

先生より梟とととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと

日 何 事 以 之
 其 一

獵師とてたをく思ふなりなくふ
 眠光の鏡のおくけりて本にうりていふと
 うづひ池よりりて、桂紙けりて宅に入
 へ氣とてより世の風流は何れ世の株
 うりい川の比史の玉とびなどいふりあ
 ぬるといふ此眼のむらあし程子もろ
 兼へも眼のむらに映して満身とてに光
 傳へハ彼書傳のおくさなりと光り抱
 の身へにんえ傳りとやさきとてわく妖
 世なり家ハいけりうほろむ主なりハ何事也

其 二
 西 山 集

やりて兼ハ世の眼のまといとて徳さうな
 と物なりびてう漢の賈誼とてし人も
 せりふ多れとび事く座のまといとてま
 海城なりとて沙の住居宛抱あちとなくお
 といふ占印細けり野馬入室主人抱と
 見えけるは鵬鳥の賦とけりて後なく身
 ぬりけるとて蓋鵬鳥と兼の類なり
 ねとふにきて妖孽ありぬとて家ほろろ
 にあつていふ家ほろろとて妖孽ありなり
 ぬりけるの時はそ地の幾次なり君

子ハ誠と信じて礼と悔よりて上天地成わ
れど下人成誠和らむハ妖ハ徳と云ふべ
てわ解と云ふ解と云ふ人々もまたあけ
るもあべつと云ふ又果といふ物ハ解と云ふ
なり多に云ふ生事と云ふ十目なり時ハな
るも母成成ふ解と云ふ又字に云ふの角と云
にけり云ふ形意成と云ふ他より人の云ふ
獄門にけり成衆首と云ふとも云ふなりと
云ふなり云ふにハ又月又日に云ふと云ふ
のけり云ふ群衆に云ふ云ふ不孝成あり先

の云と云ふやわり云ふ云ふけり政なりと云ふ
才又 鶴の事付弓に聖人の造法なる
又云く鶴と云ふ物ハ深山幽谷に云ふ化鳥
なり深三位教政なりハ虎のおとと云ふ
と云ふ成し成誠と云ふ云ふ云ふの成誠
事要成物成に云ふ云ふ又成成が成成
一書大平記にあり成成成に鶴のなり時
招魂の法成成事云ふ云ふ成成に云ふ
は成成なり云ふ成成と云ふ成成なり成成
成成なり成成なり云ふ成成なり成成なり



急いそぎ又またあどしうとかなるべう第やのまがなる
 きて老らうの脱だつは元もとりうく此こ盟めいを重おも人のま
 り始はじりトハリせとと大だい廊らうハも形かたち優やさしこ
 幽ゆうりりて航かうも航かうなぶのたふひなるにあ
 引ひりりたひへへの割わりはまたたふに重おも人の他ほか
 おのまくなり航かうにうさうに航かう裡うち航かうの
 いまてい航かうりうとこんうりもハさうた
 そ 才さい六りく 鬼き門もん 舟ふね 因いん氏し王わう健けん亡むつ目め又また門もんあ
 の事こと
 明めいふり同どうくいくせに鬼きつたりとハ
 て大だい後ごの人ひとあつとこんうりもハさうた
 の事こと

とにーいハカナンとざりひはわす事
此度々カレと曲直の方ハ人留のいむ
つさ方にいふは元来なくいと同けり
五音くいと鬼つと云事ハ東方朔の神異
記ハ東方度相のふに大なる地の本あり
と下に神ありと云事ハ神靈と云く
りくこれ鬼鬼の人は害成なれ地は
王のり元と云の方成鬼門と云と云え
ありとくハいと云事ハ海と云事ハ書に
出るに云わんとも云その書に鬼つ成と

とり少々みんゆん元より事成のなり
に曲直の方成事ハ何事の時より
はと云事ハと云事ハと云事ハと云事
ておれハ東方の方成いと云事ハ何事
お角と云事ハと云事ハと云事ハと云
事ハ何事ハと云事ハと云事ハと云事
と云事ハと云事ハと云事ハと云事
の事ハ何事ハと云事ハと云事ハと云
事ハ何事ハと云事ハと云事ハと云事
世ハ何事ハと云事ハと云事ハと云事

なりやいふむも時にあさふ中庸の如き
けり太うこはけく終るしされどもとむ
鬼つへびさても善なり城なまはようか
辰己へ向ひとも悪事せなまはわうと
終鬼つにさうに軍家にそと創へば
目取時おのよりめしとびくのぶに悪目なり
と善城かせい終るるに目あ皮善目あり
とも悪をささむ終るるにひわるじ又
家いへく月ひ事りる善例の月あり事
にひひう一周の武王と聖人天下の如き

殷の紂王と人々付あふに善道の如
後亡月なりけりハ群臣いさめけるや
目いへく目とて終るるに目なまハ善家ふ
かくいへくさうに終るるに目のはしり
う城太云とささむいへく終るるに目な
さそはるるに目いへく一候めくさ地目なり
て終るるに目いへく終るるに目いへく
月の也八百子終りけりいへく武王を
終りてさうに終るるに目いへく終るる
王同日終る善例の如きなりハ名前の

歩に時と目のみうこよけさへ敵とす
簡あきさ角紙あきとらんうとに
わんさきさ人によりてその目にうさ
事わさし^{あき}名もあ紙はしとのあきなり
才七 雪女の事 雪女^{ゆめめ}洗^{あら}
糸のうくけおゆ 船^{ふね}借^かの發^{はつ}白^{はく}に雪女
尸事んえりけいといふあきさ地に
と同けさ先生^{せんせい}のうき雪女といふう
うあはしのうきさ書^{かき}はとんえん又船^{ふね}借^かなり
にさるはと雪^{ゆき}の事^{こと}はたりんえん

にさるはと雪^{ゆき}の事^{こと}はたりんえん
わんさきさ人によりてその目にうさ
事わさし^{あき}名もあ紙はしとのあきなり
才七 雪女の事 雪女^{ゆめめ}洗^{あら}
糸のうくけおゆ 船^{ふね}借^かの發^{はつ}白^{はく}に雪女
尸事んえりけいといふあきさ地に
と同けさ先生^{せんせい}のうき雪女といふう
うあはしのうきさ書^{かき}はとんえん又船^{ふね}借^かなり
にさるはと雪^{ゆき}の事^{こと}はたりんえん

白くなり侍り況大勢を金氣清めぬの戦れは
町さどろなまきバ面影のうらにそと文とゆき
てありうさまりて路つものなるや又同志
うらバ堅くあまら抱き寄るなりゆき回
大うさあらく侍り生駒の骨ハ白く華本の
根を白く潮と煮うこむ事ハ志高くおのり
酒より砂をあらえ侍りばやとゆきまた

才八 西町墓の燃一事

一人の云くおきと江崎町のあるちに切腹を
しんと焚きうが敷毎にそ墓より火りえ出

ゆれりめハ小僧同宿なやの足らるのそに
ささうにもなくゆき文にほよハ恒持さくはあ
世にわやうと事にならひさゆく理えなと
うきそあひけきとそをあしなりしにけは
ハ燃ゆはしと戸はがそ墓のそゆり極なる罪
人ほくそそれとつむせうけくと消えさるま
おのきと路よりさるそわ剣をぬきまたけ
とくけ理くしそあしなやとらひもまたん
先生著くいくそあしなやとらひもまたん
そ理くさだ切腹を一人なまきハ血あばきあ

てそ血よりりえ出ろ火なり是は熾火なり
ゆるゆるんてけハ例の陰火な事いなるが人
の血のくにうさる半なるは紙教ぞ世系
なるとそ血のひきまり結るる事いなる
血もゆる物なりそそゆるじハ彼血も之
しそなる血の氣つそそおとなり血おのこ
と血じ理なりよりよりそ血の氣はさる
うらちそ僧の教化もゆるとぞりそん
わ創と事ハゆるんえよりそ火そ天地
陰陽の精氣はく分のたじそ地な事い

そそ入と事ハゆるにわよりてハわゆる事
ななるる海とそあはゆるとてハゆるる
さ事と鬼神幽冥のな理な事ハ人志
も理とそゆるん及んそゆるに付
て或んけ地と名付不思成とあり世
不思成なり世系さるる事なりと理そ
才九 舟函具付丹波の煙火は仁光坊
或人そく云西國又そ水はそゆるとの風
阿そゆるるげそとゆるるハ必は彼のそ人
火のそえ又そ人教などのわゆる事ゆるそバ

船面^{ふね}とPなりはざり舟^{ふね}とどこのなる
をどきなり船^{ふね}破損^{はくそん}せし時^{とき}海中^{かいちゆう}に沈^{しず}ま
人の魂魄^{こんぱく}の沈^{しず}なりとP傳^{つた}へ秦^{しん}の武
文^ぶり怨^{おん}夷^い再^{また}も越^え中の古^{ふる}後^ご名^な越^えをいふ同
倭^わ理^り亮^{りやう}名^な原^{はら}也^{なり}なり安^{やす}統^{とう}の事^{こと}なりひ出
らるるくゆしとゆがさし傳^{つた}へんと同^{どう}は
た先^{せん}生^{せい}名^なをいふくも海^{かい}東^{とう}に足^あえぬ火^ひを
舟^{ふね}中の陰^{いん}火^かとて一^{いつ}舟^{ふね}なり是^{こゝ}なり是^{こゝ}なり
山のいふなりはあさうおとく舟^{ふね}中に火^ひを
なりさハとどきなり舟^{ふね}に死^しなり人のたまり

おとといふと火^ひとて形^{かたち}もあらうと傳^{つた}へる
舟^{ふね}形^{かたち}の底^{そこ}のこゝなりとて朽^くなり傳^{つた}へる
その氣^き此^{こゝ}沈^{しず}なりとて現^{あらわ}るるにわづらひ彼^か
武^ぶ文^{ぶん}名^な越^えなりとてわづらひぬんの浦^{うら}など
のおとく一^{いつ}度^{たび}に大^{おほ}勢^{せい}お果^はるハ朽^くなり怨^{おん}夷^い
とのおとく丹^{たん}波^はの海^{かい}うづつはな越^えが火^ひとて
あり是^{こゝ}も舟^{ふね}の底^{そこ}なりとてわづらひぬんの浦^{うら}
と越^え山の海^{かい}うづつに現^{あらわ}るる越^えが火^ひとて
阿^あまの山^{やま}とてわづらひぬんの浦^{うら}など
うまハ金^{きん}銀^{ぎん}とてわづらひぬんの浦^{うら}など

はい海へながさしとてやとみざりいふこ世
と海うざり此なまはさうとてそと校也とあハ
ざりしが天命これと海一さハ清水の世そ
る時彼姓はほきてあつと死にけつがそ
るをば今にやうづ海はあまは火の丸
うせふといせ姓が火とてやりなういせり
とありそと捨うまう小児の亡魂まてハ
そ姓がうらうこの火北男とて又海の水
仁光坊の火とあらハ是ハ先の持列が海
のわうりに何じとてやと代官ありそとて

性より真言僧に仁光坊といふと美僧
ありしに代官の女房ふくむとけさく
くどたけきとて彼僧同むとて女房れい
けるハかく同むとてうらハあふ義なるま
とのうとてさへむとてかりとて
い僧と供とてくとなたふにせんと思ひ仁光坊
まてにせとけきとて不義なるなりけ
うりと告げきとて代官なるなりとて
とかのゆは及んで彼僧と斬罪におこ
なふとて仁光坊たてにうらみふ事ハ後



如くの事なるは実否のせんうとなく
 又うさめと見まふうらハ忽ちと人知るとん
 て月をいづかし齒とくひとづりて死ける終
 にそつ教のりなくた教とく及今に終
 まてそ俗のうらとを埋てまのふざはより
 火此丸をせおけがや火此中に清浄の首あ
 りくと見えゆらとあうる事此のます
 人なるにあらうにをゆる秘ととあましくハ
 わる理にそくもあはしの書にをわく
 見えゆらとあうる事此のます

才十

雨師風伯事

付

殷湯王唐太宗の事

一人の云々々此事と思ひわづかし中へ風
ほどもおれ候なりと傳へて西の文風の
神意はとわがめしハ神よりくる事と有り
ゆふにや又庵に在る西師風伯なりと
有りて西をなるとししとある一此の
とんぬぐもあましくはしと物候と水度
傳へると同じきハ先生著く云此の陰氣ハ
ほりて雲となり陽氣ハくさるるも雲とな
バ元より陰陽のなりとけり外に候るさる

鬼作りまぐさにあはれさきこと雲の面影と
ほして万地のめぐもとうるよりよみ衆愚の
なるとあふいと山川社稷たまたむに傳へ
びくまうを家おほと西風の美より夕陽
の香なりわたり風ハ天地の機氣とて陰陽
此氣の動と静とをあらわし秋と春とをあら
わす風の少と多とありと花と葉とをあら
わす空と地とをあらわすの所あるまじくと
水風火土をあらわすの所あるまじくと云々

の明^{あき}くもあくなりぞしけぬ風の神とわそ
 うさ形^{かたち}は刻^きと袋^{ふくろ}なりと梅^{うめ}さるるハ律^{りつ}唱^{なう}の
 後^{あと}はを彼^かと半^{はん}とくもくもく此^こ似^に合^あふ
 にくももなるぞしそ又目^めでりにぬとを
 てもさしきるハさぬく此^こ理^りゆ中^{なかつ}は一天^{いつてん}
 下^{した}代^{だい}早^{はや}なりてみれば此^こにけしハ一^{いち}か此^こ早^{はや}に
 を國^{こく}主^{しゅ}の来^きは應^{おう}じ一^{いち}々^{ささ}目^めでりにをさ里^{さと}
 れものかひはなりハ一^{いち}も銘^{めい}くの司^し司^し
 外^がへを及^{およ}べくは是^{こゝ}商^{しょう}戦^{せん}のほなり様^{さま}も自^{みづか}
 なる事^{こと}を来^きなりと時^{とき}をみればけりさるる
 のさだうと偽^{いつはり}現^{げん}と偽^{いつはり}じて移^{うつ}じめさる例^{れい}ぬ
 ささとも自^{みづか}りなりハ一^{いち}も感^{かん}無^むハ化^{くわ}ん
 むじ殷^{いん}の湯^{とう}王^{わう}とハ聖^{せい}人^{にん}の後^ご代^{だい}は太^{たい}早^{はや}わ
 くに湯^{とう}王^{わう}自^{みづか}るは出^でるハ一^{いち}も才^{さい}と性^{せい}じ
 て外^がれあやまちに責^せなりハ一^{いち}もと集^{しふ}の下^{した}
 に忽^{たち}ちぬかりしとさるる帝^{てい}王^{わう}世^{せい}紀^きはるる
 又^{また}帝^{てい}王^{わう}とハ賢^{けん}王^{わう}の後^ご代^{だい}は燈^{とう}とハ一^{いち}
 物^{もの}天^{てん}下^かにみらくて民^{たみ}の害^{がい}成^{なり}はしけり
 太^{たい}宗^{そう}曰^{いは}く是^{こゝ}朕^{みづか}の政^{せい}のわさるる天^{てん}より
 まさるハ一^{いち}とさるる下^{した}代^{だい}蒼^{そう}生^{せい}なり

の明^{あき}くもあくなりぞしけぬ風の神とわそ
 うさ形^{かたち}は刻^きと袋^{ふくろ}なりと梅^{うめ}さるるハ律^{りつ}唱^{なう}の
 後^{あと}はを彼^かと半^{はん}とくもくもく此^こ似^に合^あふ
 にくももなるぞしそ又目^めでりにぬとを
 てもさしきるハさぬく此^こ理^りゆ中^{なかつ}は一天^{いつてん}
 下^{した}代^{だい}早^{はや}なりてみれば此^こにけしハ一^{いち}か此^こ早^{はや}に
 を國^{こく}主^{しゅ}の来^きは應^{おう}じ一^{いち}々^{ささ}目^めでりにをさ里^{さと}
 れものかひはなりハ一^{いち}も銘^{めい}くの司^し司^し
 外^がへを及^{およ}べくは是^{こゝ}商^{しょう}戦^{せん}のほなり様^{さま}も自^{みづか}
 なる事^{こと}を来^きなりと時^{とき}をみればけりさるる
 のさだうと偽^{いつはり}現^{げん}と偽^{いつはり}じて移^{うつ}じめさる例^{れい}ぬ
 ささとも自^{みづか}りなりハ一^{いち}も感^{かん}無^むハ化^{くわ}ん
 むじ殷^{いん}の湯^{とう}王^{わう}とハ聖^{せい}人^{にん}の後^ご代^{だい}は太^{たい}早^{はや}わ
 くに湯^{とう}王^{わう}自^{みづか}るは出^でるハ一^{いち}も才^{さい}と性^{せい}じ
 て外^がれあやまちに責^せなりハ一^{いち}もと集^{しふ}の下^{した}
 に忽^{たち}ちぬかりしとさるる帝^{てい}王^{わう}世^{せい}紀^きはるる
 又^{また}帝^{てい}王^{わう}とハ賢^{けん}王^{わう}の後^ご代^{だい}は燈^{とう}とハ一^{いち}
 物^{もの}天^{てん}下^かにみらくて民^{たみ}の害^{がい}成^{なり}はしけり
 太^{たい}宗^{そう}曰^{いは}く是^{こゝ}朕^{みづか}の政^{せい}のわさるる天^{てん}より
 まさるハ一^{いち}とさるる下^{した}代^{だい}蒼^{そう}生^{せい}なり

むけありにわづね彼美石と名草一人
そは軍法の名人わく終良北師近なる人
なまを多智傳紙用ひありなりそはハ家
世とのがまう者なるがし書をたけなりをさ
あり海は授けなどゑ人北師まのれと
ん海軍と思ひわ創るもの世の
伝作とわこううむびるなり張るもそ
公とさとりてはよ美石とまつはしりり
う代軍法よわく傳るものと海軍
百代修傳刺書之に換

好文堂